

輕
心
版
大
坡
二

卷13
1315
2



門 13
番 1315
巻 1



御口服を被卷之二目録

平物びらもの

毛彫けがら

襦じゆの尻しり

帯おびのおび

女おんなのおんな

女おんなのおんな

女おんなのおんな



昨日服を被巻く二

浪平物

昨夜唯々所をこれに極下下はくそやわのそぎ
何ぞんめらと往來をけまよ中にも法をあらふがの
からさ男をそゆり足れば大の男がふもあいで
だんびら物をせうましくとゆりまつて事なぬ
酒の忍び何やどおるらんといはれりさ捕まてさどり
くとりりたんの若もあくるで移らまげえりの
だんびらとひらぬり足ればた刀典てあつて

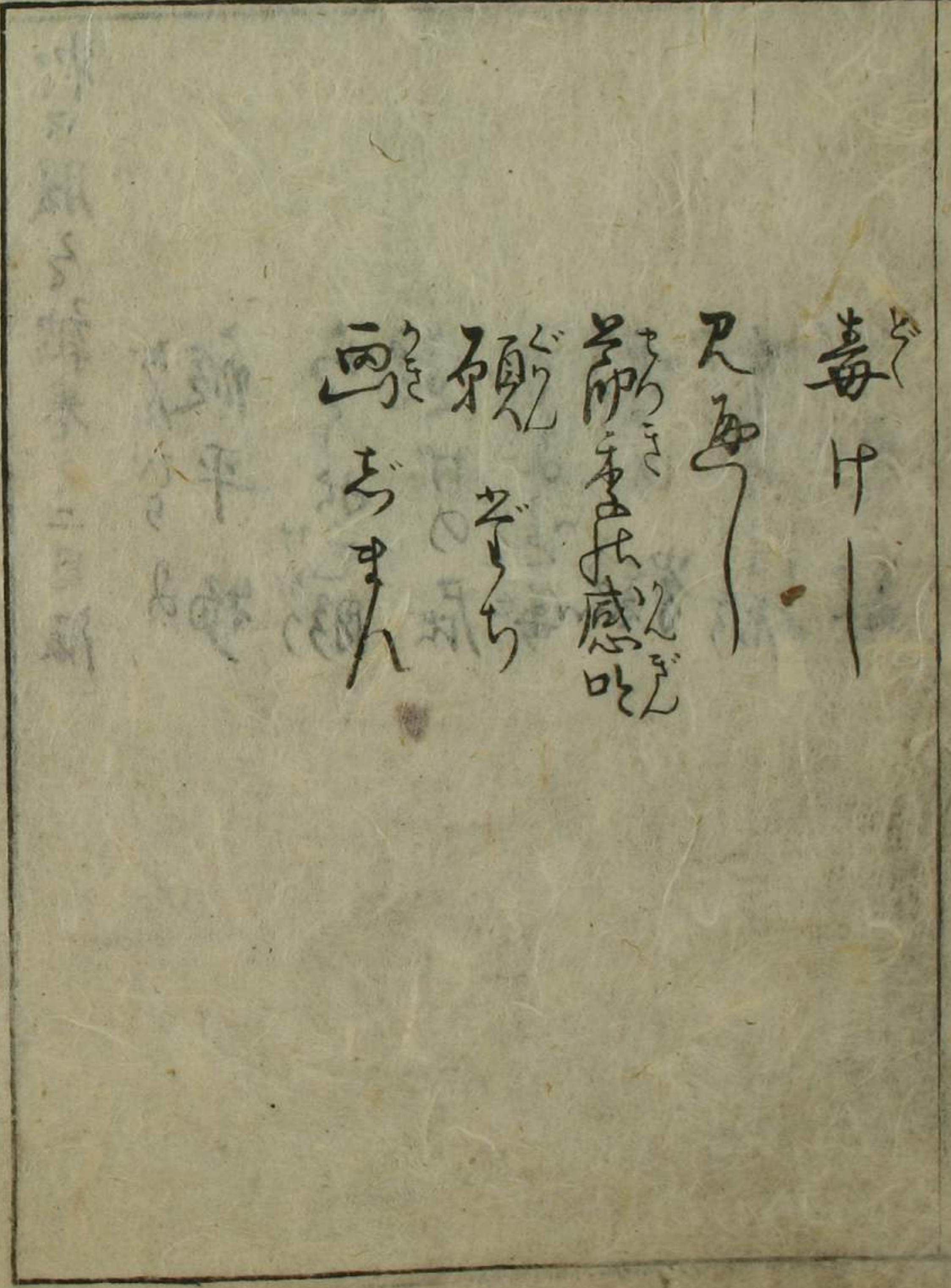
毒けい

尺毎

節を其感吃

願

画



らうれ毛敷

座敷の宮れすくふくを縁のらうに毛敷ケガリする者も
あく福ねざ巨じゆ格かく救きうりつてあり而しとららまけんぢ人の流りゅう
ぬもかりいいままとくとくとあつとくく人のいいやう
是このこししししぬぬゆゆととああいいととや

まんげの辰

去こ所ところの擲ちやくりしし振ふる先さきで辰ちんをむむととののぐぐととおおや
久く之し庭ていをううぢぢてああて是こととまま多た本ほんをままてここけ
ああいいて多た擲ちやくりししままののどどににままのの金きんをを歩あええしし

久く三さんががははととををんんちちあありりままれればば久く之し流りゅうええられれ今いまれれ辰ちん
のの代しろりりとと之しばばりりややああいい中ちゆうれれままととや

寺てらのの喧けん喧けん

寺てら子し座ざのの体たいりりにに中ちゆう子しれれままややええああつつにに化たつつととけん
くくららくくそそのの作しやく通つうををりりああららずずままややとといいかかののぬぬが
ままややのの山さん休きゆうととくくゆゆけけををおおららばば日にちああららるるああいい
ああままのの志しととままのの事じ西さいよりりままりりれればばここののままとと子し座ざ
ままののくくままげげららししががんんででししららののままのの事じ西さいののままとと子し座ざ
ゆゆままののああららるるをを場ばうととままのの山さんぬぬととくくののままとと子し座ざ

又おあしあもあましちを山やまに依よちやがらちがんと申ます
つげんばぬあし師し匠じやうのどくまうにんえしヶか師し匠じやう
のりよそこしハ四方しやうほうにまらうつあめれあり
ましたらよの神かみとこが二人ふたりも申ませうに

雷かみなりのまじり

雷かみなりがあらしてなり換かし申ますおのまじり申ます
あんなびらりておまじり申ますおのまじり申ます
あんなびらりておまじり申ますおのまじり申ます
あんなびらりておまじり申ますおのまじり申ます

雨あめにはれのまじり申ます
雨あめにはれのまじり申ます
雨あめにはれのまじり申ます
雨あめにはれのまじり申ます

女め史しのし据よ

女め史しのし据よありて神かみ送しやう者しやありて
女め史しのし据よありて神かみ送しやう者しやありて
女め史しのし据よありて神かみ送しやう者しやありて
女め史しのし据よありて神かみ送しやう者しやありて

を掃きまわさうほうほしごとらつてりねとていづ
 ちんばねんをまふとて寝寝て日身にぬらぐれ
 ふじゆうを掃く人ふを掃くぬふじゆうを掃く
 じゆうぬらぐらへ鈴切 苗まをこく

芝居の盆

どつと田舎お竹田の芝居見お郎が折う折の目
 八まんのあまて保のにけりおびてく悪路中悪お
 しやうなとてまてかけりおひあくとて居りて
 やうらう海取くぶお郎Pもよひせむの盆として



人形まりーくまぐくたまりおぎーととびらていーのま
それのにりりれりてごごうまうーく候のこまかみ
じんふたううまひ

毒けー

腎虚おてひさーくごらひやうーひらりそらーくと心
うーちまもまらーに生まらんーゆーとておまき
出られーが日くまなれとてまだ内中ぬる
ふのりー人をむらひおーかごーらひのこま
ゆらりーと知れくーとてなれぬ

内中のらひぬもくーとまひかゆう大てのあんで
ふまらと目のこまひを運れまのびやうまのそ
あやまひのうけいぬらふとてまごらうまめ
わまりとまにむらびとて九折れー一思ふおれ
まはらちかぬぬぬうとてまで何ととてまごけ
それおまらマ十折ふまーまん所を本社やて北
くら南へちやうらんりてまらり内おれまらぬ
まとまらふするらひまらんまらぬまらぬ
まらぬの極まらりていーまらぬまらぬまらぬ

おろく見すいかしやれの後世ゆでむはごうこあんの
くつらふむいもゆつてまぢるをうらそりてけんを
半ばどぶくと縁まらりむとてんごうとれむ女ごうも
何らながうとてうわおまわかし人あんとてい
くむことなきつけがゆごう務ふはげんを
れんごどもみらんふとげとびりりり

そぢもさゆのが毒又たつと

見海

見海（ヤシヤシ）のほるふらと海はうろくしてある

い本村一人よりたれやごうと家屋をまづみあるに
けたとてぼりゆのでたれ山がうま人の音もあて
やりのがきやと志ぬのたをなせうらあて毎らねごと
移らかま山がうまてつねらもそとふねうらあて
まいせんうらあてたれ算卦のときには本うらま
あてうらあてたれはふとわらとてうら

昔はよみ感吃

二 三 四 五 六 七 八 九 十 十一 十二 十三 十四 十五 十六 十七 十八 十九 二十 二十一 二十二 二十三 二十四 二十五 二十六 二十七 二十八 二十九 三十 三十一 三十二 三十三 三十四 三十五 三十六 三十七 三十八 三十九 四十 四十一 四十二 四十三 四十四 四十五 四十六 四十七 四十八 四十九 五十 五十一 五十二 五十三 五十四 五十五 五十六 五十七 五十八 五十九 六十 六十一 六十二 六十三 六十四 六十五 六十六 六十七 六十八 六十九 七十 七十一 七十二 七十三 七十四 七十五 七十六 七十七 七十八 七十九 八十 八十一 八十二 八十三 八十四 八十五 八十六 八十七 八十八 八十九 九十 九十一 九十二 九十三 九十四 九十五 九十六 九十七 九十八 九十九 一百

しつにそくうのかくげ極のいふふ九正はくづく
海ありしやうく先もかまうまうまうまう

半おー十三金 解一ツ

四か百又 解一ツ

とたどるいふれ

解一ツ

あはしんんでまふと花車がびやゆたやぞま
強うけ心の手をひきかあひ解一ツ
うけと時をゆ 解一ツ

あんせえ林さん、解一ツ
天林へ解一ツ
解一ツ
足はあれの一生 解一ツ

画自悟

なまの雨くらぬす魚の結を平た解一ツ
みざねい葉とむてやうたり 解一ツ
解一ツ
をさく一人のいさう 解一ツ

上よわきとんどの海にいとくはつる酒子
 みのりのさかきまにあらはるる酒子
 ありてやとらふ

種口後を報二く巻終

